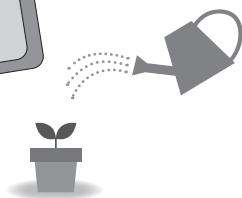
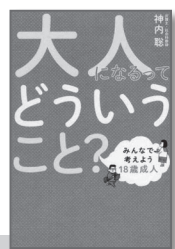


今月の ブックトーク



新たな年を清らかな気持ちで迎えていることと思います。今年も本の旅を続けてまいりましょう。1月第2月曜日（1999年以前は1月15日）は、大人になった青年を励まし祝う日として昔の元服の時期に因んで1948年に制定された祝日です。20歳で祝う自治体がまだ多いようですが、2022年4月から民法改正により成年年齢が20歳から18歳に引き下げられました。中高生には、グッと成年が近づいた感覚があるのではないのでしょうか。

そこで、『**大人になるってどういうこと？**』です。



神内 聡・著
くもん出版

弁護士である著者が、18歳成年とは、主に法律的な視点から未成年と比べてどう変わるのかを解説します。スマホの契約、クレジットカードの作成、アルバイトの応募等が保護者の同意なしでできるようになります。それだけ自由度が増すということは、責任も重くのしかかることに注意

が必要です。多額の損害賠償等トラブルになりそうな多くの事例や法律の関連参考条文も掲載されています。確認しておきましょう。

次は、『**北欧の幸せな社会のつくり方：10代からの政治と選挙**』です。著者は、ノルウェーの大学院を卒業し、オスロから日本へ情報発信をしているジャーナリストです。北欧では、選挙は高い投票率でいつもお祭り行事のよう。子どもや若者たちの意見を政治家は真面目に聞き、若い世代から楽しく政治や選挙を考える文化があるようです。成人は従来から18歳からで、中高での授業でも



あぶみ あさき・著
かもがわ出版

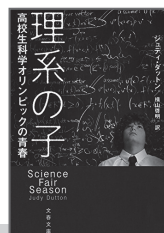
1月(睦月)「成人の日」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

主権者教育が根付いており、各人が意見を述べ合う時間が尊重されています。気候変動デモのスウェーデンのグレタさんの活動もおなじみの通り。「自分の意見には価値がある」という北欧の民主主義は、これからの日本の若者にも参考になりそうです。

今度は、『**理系の子：高校生科学オリンピックの青春**』。インテル国際学生科学フェアのお話です。



ジュディ・ダットン・著
横山 啓明・訳
文藝春秋（文春文庫）

世界中から高校生が集い、賞金と奨学金をめぐる競い合う科学オリンピック。参加者は、天才や秀才を思い浮かべてしまいがちですが、この本で紹介される研究では、各人が抱えている切実な問題に直面し、なんとかその問いに仮説を立て、凄まじく探究する過程が描かれている実話です。大人になることは、

自立して主体的に自分の課題に取り組んでいく姿勢を獲得することだと思います。同世代の彼らの情熱は、きっと皆さんの励みにもなることでしょう。

最後は、古今東西の窓を開けてくれる『**やりなおし世界文学**』。芥川賞作家津村記久子が各出版社の名作100などのリストによく出てくるような世界文学の作品を軽妙な語り口でハードルを低くして紹介してくれます。題名は知っていてもなかなか読めていない古典が並びますが、「誰かはおそらくあなたの気持ちをわかってくれるはず」です。孤独な状況に置かれても、本はいつでも友人で知恵を授けてくれます。どうか海外の作品にも親しんでください。



津村 記久子・著
新潮社（新潮文庫）

最後のページのクイズの答え：
Q1 ② 水中 Q2 ② ヒノキ Q3 ① 軽車両
Q4 ① 切腹を連想するため縁起が悪いから

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

